令和４年度　第12号
３月 15日（水）

所沢市立美原中学校

学校だより No12

学　校　教　育　目　標
・進んで学ぶ生徒（知）
・心豊かな生徒（徳）
・たくましい生徒（体）

校長へ３年生から「桜のメッセージ」

第47回　卒業証書授与式

日に日に日差しのあたたかさが増し、木々には、新しいつぼみがふくらみ、柔らかな日差しの中に薄紅色の春の色を映し出す頃となりました。

【略】本日、ここに保護者の皆様のご臨席を賜り、所沢市立美原中学校「第４７回　卒業証書授与式」が挙行できますことに感謝申し上げます。

先ほど、卒業証書を授与しました、２２４名の卒業生の皆さん、卒業、おめでとうございます。また保護者の皆様には、お子様が９年間の義務教育を無事に終えられましたことに対し心よりお祝い申しあげます。

さて、皆さんは、令和２年１月に始まったコロナの流行に伴い、その年の３月にできた特別措置法により、緊急事態宣言が出され、令和元年度、小学校の卒業式は、厳しい規制の中での実施。令和２年度の中学校の入学式は、６月というように私たちが生まれてから経験したことのないものでした。それは、我々教職員も同様だったのです。生徒に対して何とかできること、やり得ることはないのだろうかと日々悩む日が続きました。生徒の皆さんは、もとより緊急事態宣言 発令後は、手探り状態で各行事や日程を変化改善し、国や自治体の対応が変わるごとに翻弄された現場が続きました。【略】そのような中で皆さんも、日を重ねるごとに不安がつのったことと思います。

私が皆さんと過ごした２年間は、４０年を超える教員生活の中でも経験したことのないことばかりでしたが、それでも、各行事は、もとより毎日の生活の中で生徒の皆さんの笑顔に出会えると、心が安堵するというか、安らぐと言うのか、「はじめに子どもありき」「本気の笑顔を体験できる美原中学校」を目指し、学校経営を行うのは、間違っていないと、背中を押されたのです。

ですから、<u>我々教職員を支えたのは、皆さんの存在です。</u>

<u>そして、皆さんを支えたのも皆さん自身なのです。</u>

昨年の卒業生は、コロナと戦い、生き抜いた学年でした。

今年の卒業生の皆さんは、コロナと共生し学校に新しい息吹を吹き込み、発展させた学年と言えると思います。

修学旅行では、旅行中、楽しそうな皆さんの姿を見ながらも、自主的な運営と課題に苦しむ姿を見ました。きっとこの経験が今後の皆さんの生活に必ず生かされると信じ、じっと見守りました。

体育祭では、昨年から再び結成した団で、各組のリーダーシップと団のフォロワーシップに集団の在り方と各自の関わり方を学びました。本気モードの競技前にマスクを外し、スタートラインにつく真剣な皆さんの眼差しは、たのもしくもあり、誇らしくも感じていました。そして今年の体育祭当日には、３年生の保護者の方々にも参観していただくことができました。種目ごとに生徒が仲間を声援し、得意不得意にかかわらず、各種目に本気で参加し、係や役割など一生懸命に活動する皆さんの姿を後輩に示すことができるとともに保護者の皆様にも成長した皆さんの姿を見ていただきました。

美原祭の合唱への取り組みは、各クラスの取り組みが紆余曲折しながらも、人の成長には、大切な行事です。生徒の学習のため、生徒優先で進めさせていただきました。その大きな理由の一つは、なんといっても

多くの学校で行えていない、３年生の学年合唱を行うためです。多くの生徒・先生方・保護者にご理解とご協力をいただき、感動の歌声をミューズの大ホールに響かせ、後輩に伝えることができました。改めて、皆さん ありがとう。そして、保護者の皆様のご理解ありがとうございました。

その他にも３年生は、３年生の学級委員会が中心にとなり他学年を巻き込んで行った、「いい学校づくり・美原サークル」「ニコニコあいさつキャンペーン」など多くの主体的な活動にチャレンジしました。

私は、簡単に「努力は、必ず報われる」とは、言えません。しかし、ここで最後にお伝えするのは、「勇気をもって行動してください」と言うことです。踏み出さなければ、行動しなければ何も変わりません。「成すことによって学ぶ」のです。その先には、きっと新たな道が拓かれ、「新たな自分の居場所」が獲得できるはずです。失敗を恐れず進んでください。

そんな卒業生の皆さんに最後に贈る言葉は、詩人：オリバー・ゴールド・スミスさんの言葉が、卒業生の皆さんにぴったりだと思い、その言葉を卒業生に送ります。

「我々の最大の栄光は、一度も失敗しないことではなく、倒れるごとにおきることにある」

美原中学校の学びは、何度も立ち上がり、皆の笑顔を獲得する道を何度も起き上がり歩み続ける皆さんの姿だと。

最後に保護者の皆様にお伝えします。３年間きっとご苦労が絶えなかったと思います。私も子育てをした中で一度だけわが子に手をあげたことがあります。小さく幼かった長女は、下の子との喧嘩のはずみで「あなたなんか生まれてこなければよかったのに」と一言った瞬間に私は、長女に手をあげてしまいました。その時、妻は、子どもを強く抱きしめ、「お父さんも私も、あなたのために下の子が欲しかったのよ」と泣きながら、子どもに話していました。　授かった命を喜び、はじめて「パパ、ママ」と言えば喜び、独り立ちしたときあんなに褒め感謝したのに、子どもが成長した今の日常生活では、人と比べるべきでないと、知りながらも比べているという、矛盾した自分に気が付きます。歳を重ね私は、ますます人の命は、それだけで尊いと実感しています。よりよい社会とは、特定の誰かだけが活躍し、幸せになる社会ではありません。美原中学校では、違いや多様性を認め、共に幸せになっていくような、社会の担い手となってもらいたいと願い、教職員は、生徒に向き合い精一杯やらせていただいたつもりです。【略】保護者の皆様並びに地域の皆様、美原中学校を支えてくださった多くの方に３年間多くのご理解とご協力を賜ったことに深く深く感謝申し上げ、式辞といたします。

Make the new wave　全員が笑顔で次のステージで活躍することを応援しています。

第 47 回卒業証書授与式式辞より

校長見聞録

先日、７組の３年生を送る会に出て、親と子の手紙の交換コーナーで、このような家族の深い愛情表現もあるのかと、勉強させていただき感銘を受けたので紹介したい。手紙の内容は、我が子を自立させるための親と家族の覚悟だ。　　*（この手紙の掲載は、了解済みです。）*

１、今までのように学校へ行きたくないなどとは、通りません。

２、社会に出れば自分が一生懸命やっていると言っても、周りが認めてくれなければ、それは、やっているとは、認めません。

３、注意されると「ムッ」としてすぐに顔に出しますが、今後そんな態度は、許されません。

４、注意されたら言い訳をせず「素直にすみません」「気をつけます」と言える人間になりなさい。

様々な見解は、あると思うが私は、深い愛情と受け取った。皆さんは、いかがでしょう。？！皆に幸あれと願う。

作品出展者　３年生　伊藤　柚奈さん　題名：分かれ路